



文とえ

桑田道夫

象徴的空間の創造

ギリシャの女優カッセリ夫人が古代オリンピックの遺跡で詩を朗読した。そして聖火はともされた。簡素な式典のようであった。しかし伝統と歴史はその式典に、砥ぎすまされたような光芒を与えたに違いない。東京オリンピックは、日本人の智慧を集め、智慧を越えた見事さであった。豪華で充実していた。

この両者の対称は面白い。それぞれに深いものを感じる。特にヨーロッパの合理主義は日本文化の伝統の上に同化され、日本の現代を誇る創造の時代に入ったことを意味するといってもよからう。

彰栄館、チャペル、理科学館、旧神学館（クラーク記念館）、有終館等々は今もなお健在である。一方新しい校舎の群は新しい同志社の発展の姿としてその偉容を誇っている。しかし便宜的な空間製造や古いものへの安易な調和ではなく、日本の現代を呼吸する同志社としての象徴的空間の創造であることを願ってやまない。

（昭九中卒・画家）